

多久市公共施設 個別施設計画について

田淵 施設の建替え、維持管理等の費用について。

答弁 公共施設の建替えや維持管理費は国の補助金や起債を活用しています。しかし、上記の対象にならないもので緊急性があるものについては一般財源をもって対応しています。また、全国の自治体と協力し、国に対して公共施設施設等の集約化、複合化、転用及び除却に係る財政措置の拡充について要望を行っています。

田淵 本計画で待ったなしの施設や長期的に取り組む施設の対応は。

答弁 本計画では、計画期間を短期（1年～10年）、中期（11年～20年）、長期（21年～40年）と分けて施設毎の方針を定めています。この方針に基づき、今後は、施設の老朽状況、利用状況などを勘案し、あわせて地元との協議などを行い計画的に公共施設の適切な再配置を進めていく必要があると考えています。



田淵 厚 議員

田淵 この計画で再配置としての複合化、集約化のビジョンは。

答弁 「多久市公共施設等総合管理計画」では、「保有資産の縮減・規模の適性化」「保有資産の長寿命化・機能維持」の2つの基本的方針を定めています。多久市公共施設個別施設計画では、総合管理計画の基本方針を踏襲し、個別の施設について一定の方向性を示しており、最適な配置検討ができると考えています。なお、40年後の目標は、現施設を40%削減としています。



SAGA2024国民 スポーツ大会について

渡島 スポーツクライミング施設の現状、完成時期は。

答弁 ボルダラー施設は6月にオープンしており、リードとスピードの施設は11月オープン予定、その後附属棟や外構工事が行われ令和6年3月までにはすべての工事が完了する予定です。

渡島 予定出店数、給水排水の整備は。

答弁 10から20店舗を予定し、来春には募集を開始していきたいと思えます。また、発電機や給排水設備は出店者で準備していただくこととしています。

渡島 ボランティアの申込状況は。

答弁 今現在は20人弱の申し込みとなっています。

渡島 多方面から意見を聞く予定は。

答弁 実行委員会を核とし、競技団体とは毎月会議を開催しています。また、観光協会、たく21などとも意見交換の場を設けています。



渡島 幸司 議員

渡島 独自の大会開催、合宿誘致は。

答弁 多久市では毎年聖廟釈菜記念大会を開催しているところです。合宿の誘致に関しては環境を整備する必要がありますと考えています。

渡島 スポーツを通じての地域活性化、青少年育成は。

答弁 スポーツを教育の中に、あるいはまちづくりの中に置いた取り組みはとても大切だと思っております。多久市としても可能性を探りながら環境等の整備も考えながら臨んでいければと考えています。



ヒトパピローマウイルスワクチン (HPVワクチン) 接種について

坂口 子宮頸がんはヒトパピローマウイルスによって起こりHPVワクチンで予防ができるとされている。多久市の接種の取り組みは。

答弁 平成22年から中学1年～3年までの女子を対象にHPVワクチン接種費用の助成を行っています。平成25年4月1日から平成25年6月までは小学6年から高校1年の女子を対象に定期接種として実施してまいりました。令和4年4月から定期予防接種と併せて、令和7年3月末まで、キャッチアップ接種として、高校2年から今年度26歳になる女性は無料で接種できます。

坂口 男性がHPVワクチン接種をする事で自身のHPV感染による疾病の予防、パートナーへの感染予防や社会全体での感染リスクの低下につながる。男性のHPVワクチン接種費用の助成は。

答弁 今後の国の定期化に向けた検討状況を注視していきます。



多久市のふるさと納税について

廣橋 多久市のふるさと納税額の推移は。

答弁 令和元年度9億円、令和2年度8・5億円、令和3年度7億円、令和4年度は前年比約160%で、11・1億円と伸びています。

廣橋 返礼品競争などが激化し、10月から返礼品の相場産基準を厳しくし、経費率を50%以下に厳格化するなど変更を行うが、多久市の対応は。

答弁 過去平均、約51%が経費率となっています。返礼品の経費は、寄附額の30%以内です。今現在この率を下げる検討も行っていきます。全ての経費を50%以下にできるように努めます。なお、本市の返礼品で地場産基準から外れるケースはほぼありません。

廣橋 ふるさと納税の使途について。

答弁 11億円の寄附があった場合、残るのが50%で約5億5千万円、その内、例年2億5千万円は、寄附者の意向に沿った形で予算配分をしています。残った3億円の半分、1億5千万円は、市役所の各課から提案

熱中症対策について



坂口 絹代 議員

坂口 高齢者に対する熱中症予防は。

答弁 地域包括支援課の職員による高齢者宅訪問時には、部屋の温度管理、水分補給、一日3回の食事をとること、熱中症の症状があるときは我慢をしないで伝えるなど具体的な内容を繰り返し啓発しています。

坂口 学校での児童生徒への対策は。

答弁 水分補給ができる環境づくり、暑さ指数の計測、学校施設の空調整備の活用など、環境整備を通して事故防止に努めています。なお、各学校の冷水機の設置は中央校が2基、西浜校が1基です。

坂口 熱中症を防ぐことは夏の社会的課題です。5℃から15℃の冷水は直腸温度の上昇を抑制し、体温を下げ熱中症予防に効果があります。水筒などに供給できる冷水機の設置の検討をお願いします。



廣橋 時則 議員

廣橋 大分県の豊後高田市ではふるさと納税のほとんどを子育て支援に使い、9年連続で転入が転出を大幅に上回っている。多久市でもゼロ歳児から2歳児の保育料の無償化にふるさと納税を使うということは考えられないか。

答弁 ゼロ歳から2歳児の保育園の無償化となれば県内初の試みですが、そういうことを行いながら、子育て世帯への支援、また、市外からの子育て世帯への移住につながるということも当然考えられますので、今後は定住政策の一環として参考にさせていただきます。